

私達が取り組む資源循環型農業と 消費者とのつながり

有限会社大郷グリーンファーマーズ
代表取締役 西塚忠元

1、弊社概要



1、位置図

主な商圈
仙台市内、仙台近郊

小売り店、飲食店等の
納品は自社便にて
月曜日から土曜日まで
配送業務を実施中



1、弊社概要 事業規模

経営概要

・資本金 2,800万円

・スタッフ 代表取締役 西塚忠元

取 締 役 熊谷剛介 武内京子 西塚忠樹

常 時 雇 用 19名(正社員8人 パート9人 技能実習生2人)

男 女 構 成 男性 11人 女性 8人

・年間売上 1億1,000万円 (2023年度実績)

水稲6,394万円 新規需要米371万円 大豆135万円 野菜2,330万円 他1,770万円

・経営面積 (令和2024年度)

主食用米 48.7ha 飼料用米 15.6ha 米粉用米 2.2ha 大豆 16.7ha

野菜 7.4ha (小松菜 延べ2ha 長ネギ2ha 枝豆1.5ha 他1.9m² とうもろこし かぼちゃ 赤しそ)

・作業受託 25.5ha (田植4.5ha 稲刈り21ha)

・仕入れ品

加工品 野菜 鶏卵



経 営 理 念

有機農業は自然環境を再生し地球を豊かにします。
私達は太陽と土と水の力を信じて種を播き続けます。

経 営 方 針

- 一．私達は農業を通して資源循環型社会の実現に向けて行動します。
- 一．私達は食の自給と安全を通じ社会に貢献します。
- 一．私達は有機農業を実践し安全安心な農産物を生産します。
- 一．私達は消費者と連帯し産直活動に取り組みます。
- 一．私達は地域社会と共に地域の自然環境保全に取り組みます。

(有)大郷グリーンファーマーズ 35年の歩み

- 1988年 地元大郷町の若手農家が集まり、「大郷みどり会」を組織。
地元生産者からの野菜の集荷販売を開始。「生産者による直接販売」を始める。
- 1999年 大郷みどり会主要メンバーにて「有限会社大郷グリーンファーマーズ」を設立。
販売会社として法人化する。
宮城県農業賞受賞(集団経営部門)
- 2004年 自社農場による米・転作・野菜の生産を行う生産法人として事業内容を転換。
野菜の集荷販売だけではなく、「生産販売」を始める。
- 2008年 環境問題、地域の農地維持のため、有機JAS認証を自社生産の米の一部で取得。
土づくりや化学合成肥料と農薬の削減の取り組みに本腰を入れる。
- 2021年 自社生産野菜の一部にて有機JAS認証を取得。
有機農産物の商品バリエーション拡充につなげる。
- 2023年 経営面積約100haの農地を地域の方々から預かり、現在の売上は1億1,000万円となる。
みどり認定(環境負荷低減事業活動)取得。
- 2024年 新社屋建設(事務所 休憩所 野菜調整室 集出荷場を集約)。
中干し延長によるカーボンクレジットに取り組む。

2、なぜ循環型農業・有機農業スタイルなのか

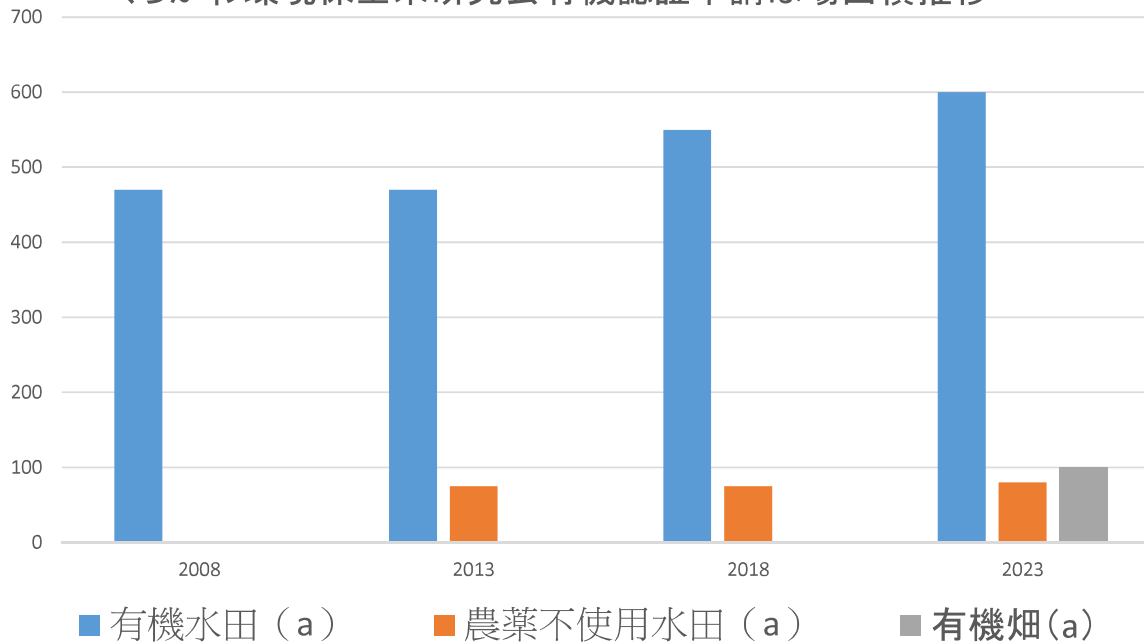


2、なぜ循環型農業・有機農業スタイルなのか

有機農業研究部会

2008年に「くろかわ環境保全米研究会」を組織。
弊社含め3生産者で町内で有機農業を実践する。

くろかわ環境保全米研究会有機認証申請ほ場面積推移



2008年から認証申請開始
増減はあるものの、総面積は増加
2021年から畑を追加

2、有機栽培体系 2024年度

・水 稲 5.4ha (2020年度 4.3ha)

- ①有機 ササニシキ 203a (96.5a)
- ②有機 金のいぶき 194a (142.3a)
- ③有機 ひとめぼれ 143a (193.8a)

・野 菜 71.79a (2020年度 0a)

- ①有機 小松菜 (延べ面積 200a)
- ②有機 モロヘイヤ 10.8a
- ③有機 青 じ そ 3.5a
- ④有機 春 菊 21.5a

自動抑草ロボット アイガモロボ



有機小松菜 定植作業



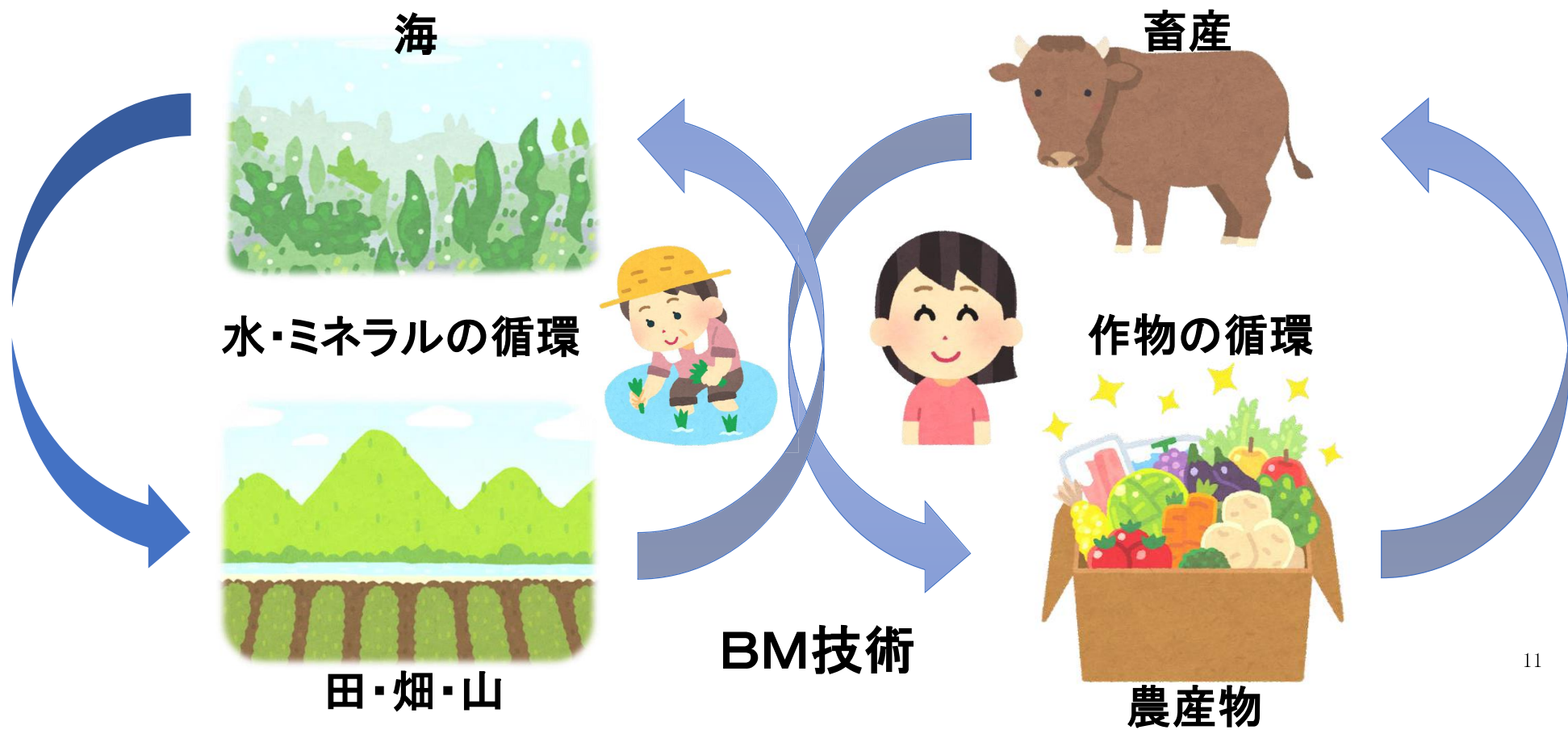
2、みどりの食料システム戦略 目標設定と現状

目 標（2050年）		現 状（2024年度）	
化学農薬	50%削減	水 稻 66.5ha	84%削減
		小松菜 延べ2ha	100%削減
		長ネギ 2ha	75%削減
化学肥料	30%削減	水 稻 66.5ha	90%削減
		小松菜 延べ2ha	100%削減
		長ネギ 2ha	60%削減
有機農業	25%に	水 稻 6.2ha	9.5%
		小松菜 延べ2ha	10%
		大 豆 1.2ha	0%

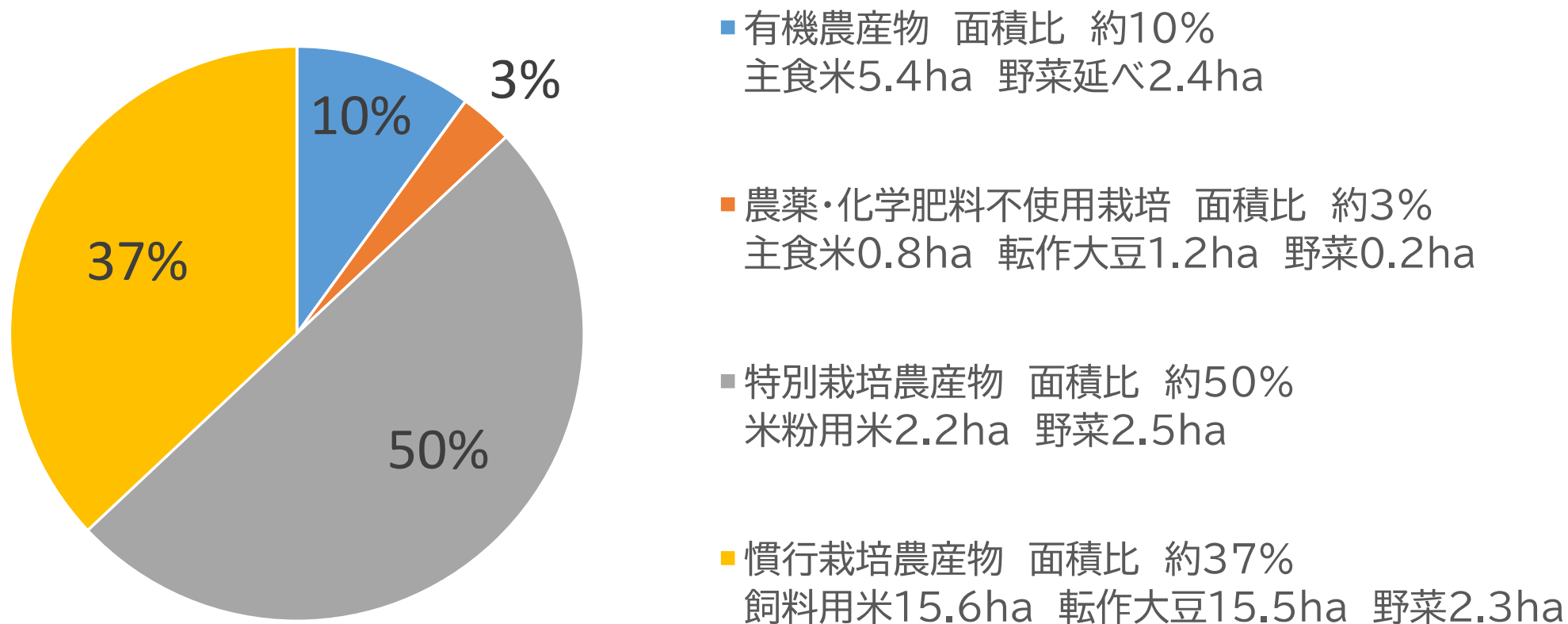
3、生産・販売戦略

3、生産・販売戦略 生産の特徴

私たちの掲げる「循環型農業」のイメージ



3、生産・販売戦略 生産の特徴(2024年度作付)



3、生産・販売戦略 販売の特徴（2023年度）



3、有機農産物の販路(2023年度実績)

(単位 千円)

販売先	水 稻	野 菜	計	割 合
生 協	4,940	8,812	13,752	71.5%
卸 業	131	3,984	4,115	21.4%
加工業	539	182	721	3.7%
直 売 他	442	209	651	3.4%
計	6,052	13,187	19,239	100.0%

4、連携事業について



4、地域との連携

農地保全活動



農地保全をできる農家が高齢化により減少。保全活動の一部を代行したり、スタッフが作業に参加し、地元と連携をとりながら、保全活動を行う

作物・資源の循環



飼料米や水田のワラを畜産農家に還元。その堆肥を取り入れることで化学肥料への依存を低減する取り組みを弊社発足当時より実施

4、社会福祉法人みんなの輪との連携（B型就労作業所）

・農作業の一部を社会福祉法人に委託

・新規需要米を社会福祉法人に販売

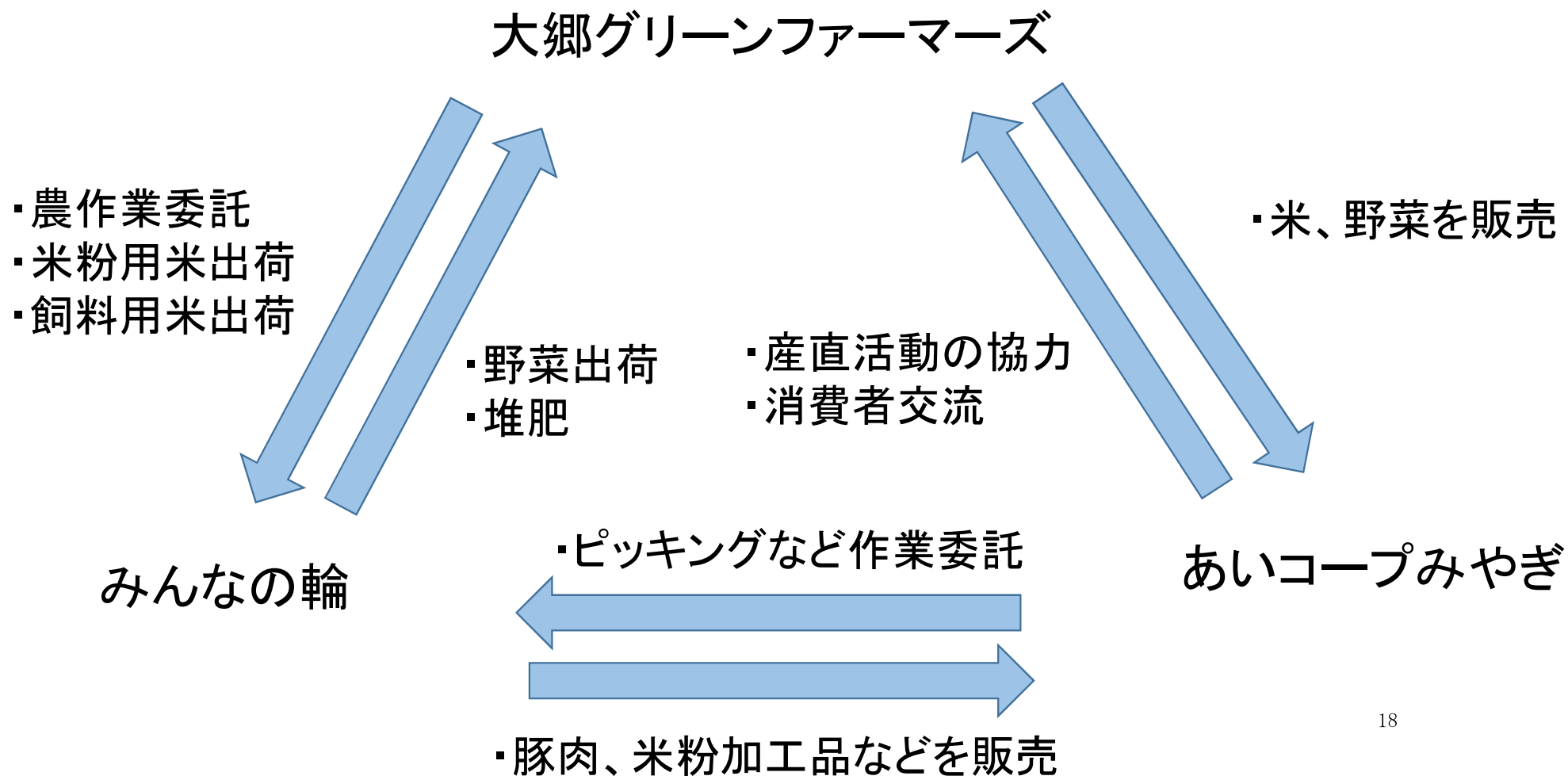
米粉用米は「わ・は・わパン工房」で米粉の原料となり、米粉パン、米粉クッキーなどの製品となり販売されている

飼料用米は養豚施設である「あいあいファームわ・は・わ田尻」で豚の飼料となり、おいしい豚肉として販売されている



生産者 消費者 障がいのない人 障がいのある人 誰もが活躍できる
社会の構築を共に目指したい！

4、連携事業紹介 福祉との連携(社会福祉法人みんなの輪との関係)



4、地域の学校 消費者との交流事業

- ・大郷小学校5年生 田植教室、稲刈り教室
- ・大郷小学校4年生 「ニワトリ」出前授業
- ・大郷小学校3年生 校外学習ねぎ圃場見学、収穫体験
- ・学 校 給 食 「金のいぶき」食材提供(2024年7月予定)
- ・消 費 者 無農薬交流田(3a)での田植、除草作業
生き物調査、稲刈り脱穀体験
生協との交流事業として30年以上継続
- ・観光農業体験を実験的に取り組んでいる



5、今後の事業展望



5、今後の事業展望

・経営規模の拡大・有機面積の拡大

離農する農家が増え続け、委託される面積が増えている。その受け皿としての企業体であり続ける。そのために、技術研鑽・若手の育成スキルを向上させることが重要である。2024年春には若手を6名雇用し、同じ有機農業を志す若手が巣立つ町として、新たな農業の町づくりを目指している。

・消費者との繋がりを深める販売戦略

BtoCの関係をさらに深めるために、消費者が直接我々の商品に触れることができる機会を増やしていく。そのために、交流事業や飲食業との連携など、直接的、間接的に「あの人の野菜」を印象づけることが可能となる事業展開を目指す。また、町としては新たな農地の活用を検討しているが、農業の6次化(加工・直売所・カフェ・観光)を進めていきたい。





ご清聴、
ありがとうございました。